第３学年Ａ組国語科学習指導案

平成２７年１０月２７日（火）　第５校時
メディアセンター　男子２０名　女子２０名
授 業 者　　教 諭　　須 賀 久 美 子

１　育成する言語能力

（１）ビブリオバトルを通して、聞き手を引きつけるプレゼンテーションを考え、表現を工夫できる力。
(関心・意欲・態度)

（２）時間や場の条件に合わせて内容を考えプレゼンテーションし、友達のものを聞いて自分の表現の参考にする力。
(話す・聞く能力)

（３）読書に親しみ、ものの見方・感じ方・考え方を広げたり深めたりすることができる力。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

２　単元名

「ビブリオバトルに挑戦」～場をふまえて効果的に話す～（教育出版）
〈大人になっても必要とされるプレゼンテーション能力の育成〉

３　生徒の思いや願いと本単元の意図

昨年度実施したディベートでは、しっかりと下調べをして、相手を説得するための資料を提示しながら、自分の（チームの）考えを述べていく活動を行った。そこで考えを発表していくことの楽しさを学び、また、難しさも学んだ。生徒たちの中には、失敗することを恐れるあまり、なかなか原稿から目を離そうとしない者もいる。しかし、社会に出たときには、相手の目を見ながら堂々と駆け引きをしたり、自分の言葉で熱く語ったりすることで、人の心を動かしていくのではないかと考える。自分の言葉で自分の考えを発信していく楽しさを、もっと身近に感じてもらうために、どのように伝えれば聞き手に分かりやすく、心に響く展開になるのか。ビブリオバトルに取り組みながら、プレゼンテーションの工夫と読書の幅を広げる活動に挑戦してみる。

アンケートからは、意外なことに半分以上の生徒が人前で話すことに苦手意識をもっていることが分かった。理由としては、話す内容や話し方についての課題が多くあげられていた。

質問１　人前で話すのは得意ですか？

① 得意です。(^_^)v　4人(５%)
② どちらかというと得意です。　17人(22%)
③ どちらかというと苦手です。　45人(59%)
④ 苦手です。(>_<)　10人(13%)

＜苦手な理由＞

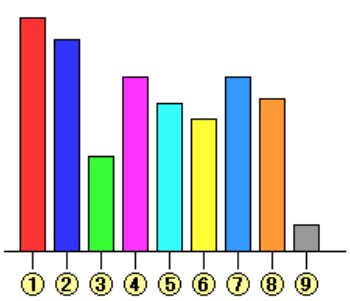
- 緊張して何を言えばいいか分からなくなる。
- あがり症なので、早口になります。
- 自分が話したいことを言葉で表すのが苦手。
- 語彙力がないので発表では、落ち着いて話せない。

グラフ

質問４　あなたが人前で話すときに工夫していることは何ですか？(複数回答可)
(複数回答あり)

① 大きな声で　44人
② はっきりと　40人
③ 間を空けて　18人
④ 相手を見て　33人
⑤ 堂々として　28人
⑥ ゆっくりと　25人
⑦ 内容をまとめておいて　33人
⑧ 原稿を用意して　29人
⑨ その他　5人

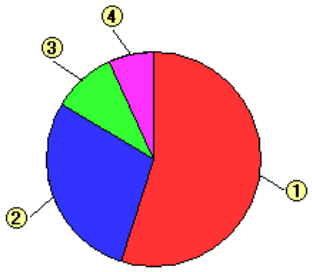
グラフ



質問5　読書は好きですか？

① 好きです。　40人(55%)
② どちらかというと好きです。　21人(29%)
③ どちらかというと嫌いです。　7人(10%)
④ 嫌いです。　5人(7%)

グラフ

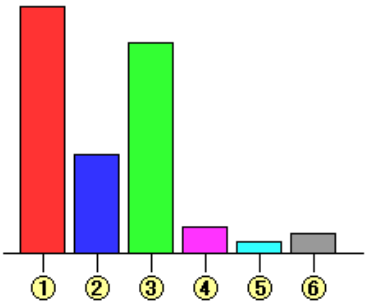


質問6　好きな本のジャンルは何ですか？（複数回答可）

（複数回答あり）

① 小説　62人
② ライトノベル　25人
③ マンガ　53人
④ 新書・実用書　7人
⑤ 絵本・児童図書　3人
⑥ その他　5人

グラフ

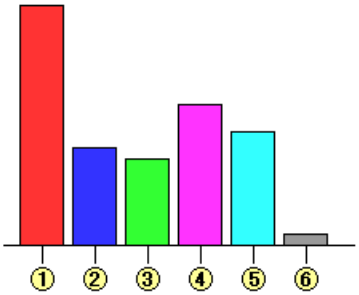


質問7　本はどのようにして手に入れることが多いですか？（複数回答可）

（複数回答あり）

① 本屋で購入する。　61人
② メディセンで借りる。　25人
③ 学校以外の図書館で借りる。　22人
④ 友達に借りる。　36人
⑤ 家にある。　29人
⑥ その他　3人

グラフ

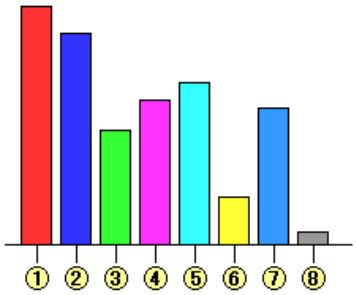


質問8　本を選ぶポイントは何ですか？（複数回答可）

（複数回答あり）

① タイトルや表紙・挿絵の感じを見て選ぶ。　54人
② 作者で選ぶ。　48人
③ ネットや新聞などの情報を見て選ぶ。　26人
④ 映像化されたものの原作を選ぶ。　33人
⑤ 友達にすすめられて選ぶ。　37人
⑥ 親や先生にすすめられて選ぶ。　11人
⑦ 書店のポップを読んで選ぶ。　31人
⑧ その他　3人

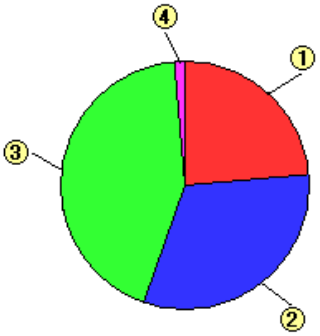
グラフ



質問9　友達と本の話をしますか？

① よくします。　18人(24%)
② まあまあします。　24人(32%)
③ あまりしません。　33人(43%)
④ したことがないです。　1人(1%)

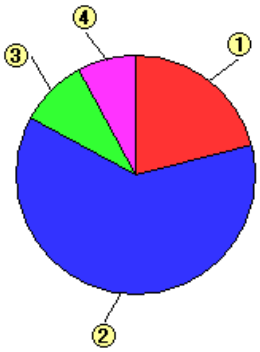
グラフ



質問10　人にすすめたい本がパッと思い浮かびますか？

① すぐ10冊以上思い浮かびました。　16人(21%)
② まぁ2～3冊くらいなら思い浮かびます。　47人(62%)
③ ようやく1冊思い浮かびました。　7人(9%)
④ だめだ、思い浮かばない。　6人(8%)

グラフ



生徒たちは、様々なプレゼンテーションやスピーチなどを練習して発表する際には、しっかりとした原稿を作るので、それなりに上手にこなしている。しかし、学年が上がるにしたがい、話をする活動で大事なことは、聞き手に応じて話をすることや聞く人を引きつける話の構成などを考えることであると考えてほしい。２年生までに原稿を作って話すことを学習してきているので、あえて３年生では「原稿を作らない」取組をし、生徒の相手や場に応じて話す能力の向上をねらいとした。

題材は、生徒たちが取り組みやすいように「ビブリオバトル（知的書評合戦）」として、この取組をきっかけに、さらに読書活動も活発にしていきたい。アンケート結果からも分かるように、生徒同士で交わされる本に関する感想や評判などの情報は、その本を選択し読もうとする生徒の意欲を喚起するのに、大きな影響力をもっていると言える。互いに楽しんで、生徒一人一人が自分の世界を広げていくことができればよいと思う。

4　ICT 活用の視点

生徒たちは、ディベートを行ったときには、下調べや集めた資料の提示にＰＣや情報ボードを使い、分かりやすさ（伝わりやすさ）を重視して利用していた。

今回の単元では、活動によって ICT を様々な場面で活用している。教員はインターネットからビブリオバトル関連の資料を簡単に取り出すことができ、準備の時間を軽減できた。生徒たちは『コラボノート（協働学習支援ソフト）』を利用して評価を書き込み合ったり、デジタルカメラで撮影したプレゼンテーションを見ながら改善点を話し合ったりと、コミュニケーションをとりながら、互いに表現技能を向上させるようにしている。中でもコラボノートはリアルタイムで自分に対する評価を見ることができ、その場で自分が感じたことと他の人が感じたことを比べて検討することができる。また、データとして残すこともできるので、次回の取組の中で自由に振り返りを行うことができる。

ICT を活用した取組は、生徒たちの中では当たり前で、あくまでもツールでしかない。ツールを上手く使いこなすことで、繰り返し活動を行えたり、情報を発信することに抵抗がなくなったり、数多くの友達の活動に目を通すことができたりする。ICT を活用していくことで、新たな学習意欲を喚起することにつながっている。

5　単元の評価規準と学習活動における具体の評価規準

評価規準	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
	大人になっても必要とされるプレゼンテーション能力を育成するための指導 ※第３学年「A 話すこと・聞くこと」（2）アに基づいた言語活動		
単元の評価規準	ビブリオバトルを通して、相手を引きつけるプレゼンテーションの構成や展開を考えて話そうとしている。	時間や場の条件に合わせて内容を考え、プレゼンテーションしたり、友達のものを聞いて自分の表現の参考にしたりしている。（ア）（ウ）	読書に親しみ、ものの見方・感じ方・考え方を広げたり深めたりする。
学習活動における具体の評価規準	①積極的にビブリオバトルを行おうとしている。	①聞き手を意識して話している。 ②他の人の発表を聞いてアドバイスできる。	①本に親しんでいる。 ②感じ方・考え方を広げている。

6　指導と評価の計画（５時間扱い）

時	学　習　活　動	学　習　内　容	学習活動に即した評価規準と評価の方法
1	・ビブリオバトルの説明を聞く。 ・ビブリオバトルのビデオを視聴してイメージをつかむ。 ・話し方のポイントをグループで考え、話し合ってまとめる。	・ビブリオバトルの仕方 ・ビブリオバトルでの効果的な話し方 ・ビブリオバトルで必要なプレゼンテーションの要素や構成 ・事前アンケートの結果	関①取組の様子
2	・前回のグループごとのまとめを発表していく。 ・自分のビブリオバトルの準備と練習を行う。	・話し方の工夫 ・展開の工夫 ・選書 ・発声	関①取組の様子 話聞②取組の様子
3 本時	・ミニビブリオバトルを行う。（４人×３分） ・互いに評価し合う。 ・互いにアドバイスをし合う。	・よいプレゼンテーションの流れ ・場の状況や相手の様子に応じた話し方 ・相手へのアドバイス ・本の魅力	関①取組の様子 話聞②取組の様子 『コラボノート（協働学習支援ソフト）』
4	・自分のプレゼンテーションの分析を行い、構成を考える。 ・本戦に向けてより本の魅力が伝わるプレゼンテーションにできるように練習する。	・効果的な話の構成や展開 ・聞き手を意識した話し方 ・語句の選択 ・その本を読みたくなるプレゼンテーションの工夫	話聞①取組の様子 『コラボノート』 言②取組の様子
5	・新たなグループに分かれて本選を行う。 ・チャンプ本を決める。	・聞き手を引きつける話し方 ・内容を深める質問	関①取組の様子 話聞①取組の様子 言①取組の様子

＜ビブリオバトルとは……公式ルール＞

①おすすめの本を持って集まる。
②一人５分で本を紹介する。
③発表後２分で質疑応答をする。
④「どの本が一番読みたくなったか」を基準に投票し，チャンプ本を決める。

7　本時の学習指導（３／５）

（1）本時のねらい

①　聞き手の反応を考えながら、プレゼンテーション中は原稿を見ないで、本の魅力を分かりやすく説明することができる。

②　互いのプレゼンテーションを分析して、次回に生かそうとしている。

（2）本時の展開

前時の学習内容	聞き手を引きつける話し方　選書　自分のプレゼンの準備と練習	
学　習　活　動	学　習　内　容	指導・支援と評価の創意工夫 ○評価　　☆ICT の活用
1　前時を振り返る。	・聞き手を引きつける話し方	☆『コラボノート（協働学習支援ソフト）』の画面を見させる。 ○話し方の工夫と内容を確認しているか。
2　４人一組でミニビブリオバトルを行う。（3分） ①バトラー ②タイムキーパー ③ビデオ係 ④進行	・１点に絞った本の紹介 ・聞き手意識 ・コミュニケーションとアドリブ ・基本的な話し方の工夫 ・聞き手として表現の仕方を評価すること	・場所を決め、互いのグループが近すぎないようにする。 ・３分までいかない生徒には、机間巡視しながら質問して、話を続けさせる。 ☆個人ＰＣを利用して、公式タイマーを利用させる。 ☆デジタルカメラを利用して、発表する場面の動画を撮影させる。
3　グループの中で、ビブリオバトルの感想を共有する。質問を考える。　（2分） バトラーは自分の反省点を書き込む。 4　２＆３を４回繰り返す。	・内容を深めるよい質問 ・プレゼンテーションのよいところ ・プレゼンテーションの改善点	○話し方に聞き手を意識した工夫がされているか。 ○話の展開にその人らしい工夫がされているか。 ○建設的なアドバイスがなされているか。 ・それぞれのグループで、時間を計りながらすすめていく。
5　『コラボノート』を見ながら、自分のプレゼンテーションを分析していく。グループ内でそれぞれアドバイスをしていく。	・話し方の工夫(黄付箋) ・プレゼンの内容(桃付箋) ・その他（青付箋）	☆『コラボノート』の指定されたページに良かった点と改善点を付箋の色を決めて書き込ませる。 ○的確にそれぞれのプレゼンを評価しているか。 ○新しい構成・展開を取り入れようとしているか。
6　本時のまとめを行う。	・参考になったアドバイスの紹介	○次時につなげる分析ができたか。
【次時の学習内容】　人を引きつける話し方の工夫　　展開の工夫		